

ICPIC Korea 報告

授業実践「トレイン」を中心に

村瀬智之

千葉大学大学院人文社会科学研究科

博士課程

中央学院大学非常勤講師

2011年7月19日

Janette Poulton

&

Deborah Conwell

Workshop

“Philosophy for children
Australia”

授業実践「トレイン」 手順

- A) 一つの概念（"Peace"）についての絵本を見ながら、思いついたことを生徒は述べていく。
- B) その間、教師はそれを関係性にあわせて、板書していく。
- C) 「平和とは何か？」と発問し、何名かに意見を言わせ、「トレイン」のワークに入っていく。

1. ASSERTION

2. AGREEMENT ^{& 1/2} DISAGREE
+ WHY?

3. OBJECTION + WHY?
TO #2

4. ASSUMPTION - 1, 2, 3

授業実践「トレイン」 手順

- A) 一つの概念("Peace")についての絵本を見ながら、思いついたことを生徒は述べていく。
- B) その間、教師はそれを関係性にあわせて、板書していく。
- C) 「平和とは何か？」と発問し、何名かに意見を言わせ、「トレイン」のワークに入っていく。
- D) 小さい紙が配られ、最初に1を書き、次の人にその紙を回す。
- E) 回ってきた紙に2を書く。
- F) これを4まで繰り返す。

Tomoyuki Murase, Japan

1. Peace is "every one is happy"
2. I disagree, because there is no necessary connection between peace and happiness
3. I object because peace requires a kind of happiness. People must be content. If they aren't, they're discontent, + that's not peace.
4. Yes, I agree because peace ^{is} ~~is~~ related to ^{the} ~~the~~ mind and heart
Assumption - peace is closely related to our feelings

Yohsuke, Tsuchiya . from Japan.

① ~~Peace~~ In order to be peace, ^{We need} I must recognize our own weakness,

Because to neglect the

RECOGNIZING
PERSONAL

AND UNDERSTANDING

② I AGREE WITH THE ASSERTION → WEAKNESS LEADS TO APPRECIATION (OF OTHERS)

③ I might recognise that I feel insecure, which might lead me to behave in a bad way to others.

④ ~~Peaceful world only~~
Peace is something that comes from understanding myself.

1. ASSERTION

2. AGREEMENT & DISAGREE
+ WHY?

3. OBJECTION TO #2
+ WHY?

4. ASSUMPTION - 1, 2, 3

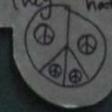
ASSUMPTIONS:

- ① Peace takes more than 1 person.
- ② Peace is the property of the individual.
- ③ Peace is a state rather than a process.

Questions?

- ① Does peace take more than one person? ✓✓✓✓✓
↕
- ② Is peace the property of the individual? ✓
↕
- ③ Is a peace a state rather than a process? ✓✓✓✓

- 2 Show strength - Pride - Keen
3. People are greedy
- 4 we can't understand each other
- 5 They wanted to get each other's
- 6 They hated each others.



实践例

実際に行った授業の手順(3時間)

1. 教科書の文章を読み、キーワードを挙げてもらう。
2. 板書し、関係性を問いながら、課題設定をする。 <ここまでで1時間>
3. トレイン <1時間>
4. 書いてもらった紙をいくつか載せたプリントを配布し、解説等。
5. あらためて最初の問いへの意見を書いてもらう。

「トレイン」の利点

1. サイレントダイアログと同じような紙上での意見交換を子ども同士でできる。
2. 時間がかからない。
3. 「隠された前提」を探るという仕方で、そこで問題になっていることを「哲学的に掘る」ことができる。(少なくとも、その近似的なものを体験してもらうことができる。)
4. 他の人の意見、特に意見の書き方について子ども自身が評価することができる。

「トレイン」の欠点

- 最初の子どもや、自分の前の子どもが書いてくれないと、リアクションをとりづらい。(これはSDと同様で、ネット上の掲示板のような「荒れる」可能性を排除できない。)
- 不規則なことをする子どもが1人でもいると全体が機能しないため、使えない。
- 授業中はともかく、授業後のまとめ等の作業が面倒。
- 各人の到達度が良く分からない。(教師側でコントロールできない。)